

神経研究所 (NIN)

筋疾患分野の人材育成
～治療法開発研究まで

疾病研究第一部
部長 西野 一三

National Institute of Neuroscience

疾病研究第一部では、筋疾患の「研究」を本務としつつ、「診断」、「筋レポジトリ」、「教育」をも含めた4つを活動の柱としています。筋疾患の専門家は少ないことから、MGCと協力しつつ筋病理診断や遺伝学的診断を初めとする診断を提供することで、筋疾患医療の後方支援を行っています。診断後の検体は筋レポジトリとして大切に保管しており、現在では、世界最高水準の質と量を誇るに至っています。疾病研究第一部では、この検体を活用し、各種筋疾患の病態解明・治療法開発を目指した研究を行っています。そのうちGNEミオパチーに関しては、我々の研究成果を元に第III相臨床試験が実施されるまでに至りました。希少

疾患である筋疾患に関しては医師の教育も重要です。国内医師向けに毎年筋病理セミナーを開催するだけでなく、世界各地からの若手医師を受け入れるとともに、彼らが帰国後も継続的に支援を提供してきています。



国民の睡眠健康増進に資する
指針の検討

睡眠・覚醒障害研究部
部長 栗山 健一

精神保健研究所 (NIMH)

睡眠・覚醒障害研究部は、睡眠-覚醒に係る神経学的機序を明らかにするとともに、これに関係する障害および合併する精神・神経疾患の病態解明、治療法開発、国民の睡眠健康を増進するための大規模調査・政策研究をミッションとし活動しております。

厚生労働省による国民の健康増進の基本方針である健康日本21(第三次)が来年度より開始される予定ですが、我々はその一環として定められる、健康づくりのための睡眠指針の改定を現在進めております。

本指針では、睡眠時間の確保の重要性とともに、睡眠の質を反映する睡眠休養感を高めるために必要な、睡眠環境(光・温度・音)の整

備、生活習慣(運動・食事・リラクゼーション)の改善・工夫、嗜好品(カフェイン・酒・タバコ)のとり方に関して、主に子ども・青少年、成人(働く人)、高齢者の3世代に分けて重要点を示す方針です。

本指針は、当研究部が中心となり、国内約20の研究機関より50名超の研究者の協力を得



て取りまとめられ、今年度中に公開される予定です。



健康日本21(第三次)はこちら

National Institute of Mental Health

NCNP 診療ニュース

T O P I C S

頭痛の鑑別・病型診断から、最適な治療法を

2023.9
Vol.36



診療科紹介

てんかん
診療部

各部門紹介

地域連携医療
福祉相談室
手術・中央
材料部

専門疾病センター紹介

薬物依存症
センター
筋疾患センター

活動紹介

神経研究所
精神保健研究所

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry

NCNP診療ニュース Vol.36 2023年9月発行
国立精神・神経医療研究センター病院 発行責任者：病院長 阿部康二
〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1
Tel.042-341-2711(代表) <https://www.ncnp.go.jp/>

頭痛の鑑別・病型診断から、最適な治療法を



特命副院長・脳神経内科診療部長・
ゲノム診療部長
高橋 祐二

総合内科部長・検査部部长
高尾 昌樹

頭痛は脳神経内科の中でも頻度の高い疾患であり、特に片頭痛は繰り返す中等度以上の頭痛のために日常生活に多大な支障を来す疾患です。働き盛りの方々(20代~40代)に多い疾患であることから社会的にも大きな影響を及ぼします。そういった疾患でありながら、「頭痛程度で」病院にかかるなんてと言われてしまったり、ご本人は非常に辛い状況なのに(私も片頭痛持ちですのでよく分かります)、周囲からはサボっていると思われるりして、まだまだ十分に理解されている疾患であるとは言えません。

一方で、頭痛診療の領域は目覚ましい発展を遂げており、特に片頭痛は、画期的な症状改善薬や予防薬が次々と出てきております。頭痛で苦しんでいる患者さんに、これらの画期的な治療法を出来るだけ届けたい、という気持ちから、2022年に頭痛外来を開設しました。毎週水曜日及び木曜日に外来診療を行っております。

頭痛外来では、まず十分な問診・診察により頭痛の鑑別診断を進めます。

頭痛診療で最も重要なのは、頭の中に何か異常があることによって起こっている頭痛、すなわち二次性頭痛をきちんと除外することです。二次性頭痛の中には、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤や脳動静脈奇形、脳出血、脳腫瘍など見逃してはならない重大な疾患がありますので、これらの鑑別をしっかり行います。そのために、原則として頭痛外来を受診された患者さんには、頭部MRI等の画像検査を受けて頂くことにしています。

二次性頭痛が除外された場合は一次性頭痛と診断します。一次性頭痛には、片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛などさまざまな病型があり、それぞれによって治療法も大きく異なります。これらの病型を正確に診断して、患者さんの生活状況にあった最適な治療法を実施していきます。

一方、既に診断のついている患者さんにおいても、治療効果が不十分なためについつい鎮痛剤の使用頻度が多くなってしまっている方が少なからずいらっしゃいます。気をつけなくてはならないのは、鎮痛剤の過剰使用による頭痛(薬剤乱用性頭痛と呼びならわされています)、つまり頻回に頭痛薬を用いることによりかえって頭痛が慢性化してしまうという問題があることです。鎮痛剤の過剰使用による頭痛を治療するためには、十分に効果のある発作改善薬の使用と、早期の予防薬の導入が必要となります。また生活環境の改善(規則正しい睡眠、適度な運動、ストレスの軽減など)も重要です。

つらい頭痛が少しでも改善し、晴れ晴れとした気持ちで過ごせる日が増えるように、患者さんの力になればと思っておりますので、どうかお気軽に頭痛外来にご紹介いただければと存じます。



NCNP
病院
診療科紹介

てんかん診療部



誰もとりのこさない てんかん診療を目指して



てんかん診療部 医長
谷口 豪

てんかんは小児から高齢者まで幅広い年齢に発症する、100人に1人の慢性的脳疾患ですが、本邦では特に成人のてんかん患者さんを診療できる専門医が圧倒的に少ないのが現状です。

これまで当院では脳神経小児科、脳神経外科、脳神経内科、精神科に所属するてんかん専門医が中心となってバーチャルな形でてんかんセンターとして小児科から高齢者までの幅広い年齢のてんかん患者さんの診療にあたってきました。その一方で、専門医はそれぞれの診療科内での様々な業務も行う必要があるなどの理由で、当院へのニーズには十分応えられない場面もありました。

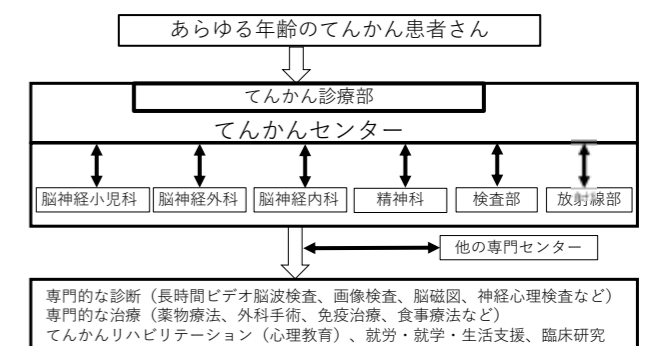
このような問題を解決するために2021年11月当院で「てんかん診療部」という、てんかん診療に特化した部門が新たに設立されました。

てんかん診療部では、長時間ビデオ脳波検査を中心とした精査入院、専門性を活かした外来診療やてんかんリハビリテーション(てんかん学習プログラム)を実践しています。特にこれから増加が予想される高齢発症てんかん、てんかんのある患者さんの心理社会的問題・精神症状、小児科からのトランジションには力を入れてきたいと思っています。

そして、てんかん診療部所属のてんかん専門医が

核となっている「総合てんかんセンター」は、複数の診療科や部門との連携・調整役として、てんかん患者さんに関連する様々な問題の解決に取り組んでいます。さらには当院内には「睡眠障害センター」や「認知症センター」、「認知行動療法センター」などの専門性の高い疾病センターが院内にあるので、そのような専門センターとも連携して、てんかん専門医のみでは対応が困難な問題にも向き合っていきたいと思っています。

また、成人のてんかん診療医、特に精神科と脳神経内科の若手医師が質の高いてんかん診療の研修をする、人材育成の場としても発展させていきたいと考えています。



地域連携医療 福祉相談室

医療連携福祉相談部 地域連携医療福祉相談室
第一医療社会事業専門職 澤 恭弘

NCNP病院
各部門
紹介

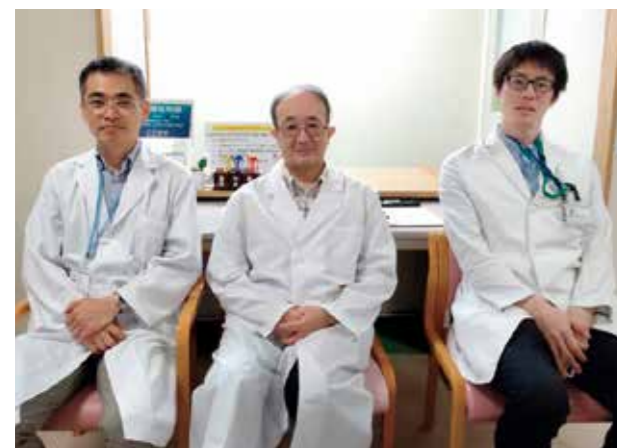
副室長3名体制となりました

令和5年4月に地域連携医療福祉相談室の体制を変更しました。従来の室長1名から副室長3名体制(脳神経内科医長 坂本崇、脳神経小児科医長 齋藤貴志、精神科医師 稲川拓磨)となり、より専門領域のご相談に対応できるようになりました。

コロナ5類移行後、幅広い地域の先生方よりご紹介をいただいております。感謝申し上げます。

当院の患者さんの居住地は、多摩地域が約5割、都内、埼玉県、神奈川県、千葉県が約4割となっています。ナショナルセンターのミッションを果たしつつ、地域に根差した医療の提供と充実を目指し、関係者の皆さんとさらに密な連携がとれるよう、より一層「顔の見える関係」を作っていきたいと考えています。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



脳神経小児科医長 齋藤 貴志
脳神経内科医長 坂本 崇
精神科医師 稲川 拓磨

手術・中央 材料部

手術・中央材料部 部長 脳神経外科診療部長 岩崎 真樹

手術と治療の安心・安全を支えます



手術・中央材料部は、手術室の運営、院内各所で使用される医療器材の洗浄・滅菌・管理・供給、医療機器の点検・管理・指導・運用を担当しています。手術部

には2部屋の手術室とmECT用の処置室があります。当院は、精神・神経・筋疾患の患者に対する特殊な手術が多いのが特徴的で、昨年度は脳神経外科130件、整形外科89件、外科61件、脳神経内科・脳神経小児科の生検術47件、mECT 955件が実施されました。また、医療機器中央管理室では多くの人工呼吸器を管理し、年800件以上の血漿交換療法をサポートしています。認知機能や身体機能が低下している一般よりもリスクの高い患者さんが多いので、関係スタッフによる調整を綿密にして安全な管理を心がけています。

NCNP病院で行っている主な手術	
機能的脳外科手術	てんかん パーキンソン病など
正常圧水頭症の手術	認知症
胃瘻造設、腱延長移行・移植術、骨折手術 神経剥離・移植術、脊髄刺激装置植込術 パクロフェンポンプ植込術など	神経・筋疾患の 合併症に対して
全身麻酔下の歯科治療	重症病棟の患者さんを 対象として
全身麻酔下の 修正型電気けいれん療法 (m-ECT)	重症うつ病、双極性障害 及び統合失調症



薬物依存症センター

精神保健研究所 薬物依存研究部長
薬物依存症センター長
松本 俊彦

薬物依存症の治療を開発し、国内外に広げる



薬物依存症センターは、2017年より開設された専門疾病センターです。現在、精神保健研究所薬物依存研究部と、センター病院の精神診療部、臨床心理部、

精神リハビリテーション部、看護部とが緊密に連携・協働し、薬物依存症患者さんの特性に応じた多様な治療プログラムを提供しています。また、自分たちが開発した治療法を診療で活用するだけでなく、書籍として刊行し、診療理念・技術に関する情報発信も国内外に対して積極的に行っています。

なお、同センターは、厚生労働依存症治療・相談拠

点設置事業における薬物依存症全国拠点として、久里浜医療センターとともに依存症対策全国センターの運営も行っており、また、東京都薬物依存症治療拠点機関としての機能も担っています。



韓国語版 SMARPP ワークブック
薬物依存症センターでの診療理念・技術に関する情報発信

専門疾病センター

NCNP病院には現在12の専門疾病センターがあります。診療科や専門分野を超えたチームにより高度専門的医療を行います。

筋疾患センター

筋疾患センター長
脳神経小児科診療部長
トランスレーショナル・メディカルセンター長
小牧 宏文

多部門が連携し先駆的な診療、研究を展開



多部門が連携し最新の知見に基づき診療や研究を行っています。NCNPは長年にわたる筋疾患の診療、研究の実績を有しており、それらの経験をもとに筋疾患の医療向上を目指した活動を行っています。専門外来を開設しており、日本で最も多く筋疾患の診療を担当している病院の一つであり全国各地から患者さんが受診されています。筋疾患と確定していない場合でも問題ありませんので、お気軽に紹介いただければと思います。NCNPは筋ジストロフィーを対象とした医薬品の開発でも中心的な役割を担っており、2020年に承認されたデュシェンヌ型筋ジストロフィーの治療薬ビルテブソの開発にも大きく貢献しています。(写真)2023年7月に実施した市民公開講座のパンフレット、来年も実施予定です。

筋疾患と確定していない場合でも問題ありませんので、お気軽に紹介いただければと思います。NCNPは筋ジストロフィーを対象とした医薬品の開発でも中心的な役割を担っており、2020年に承認されたデュシェンヌ型筋ジストロフィーの治療薬ビルテブソの開発にも大きく貢献しています。(写真)2023年7月に実施した市民公開講座のパンフレット、来年も実施予定です。

第19回 筋ジストロフィー 市民公開講座 Web開催
2023年7月8日 (13:00-)
定員 400名
参加費 無料
事前登録 URL: <https://forms.gle/YuRHzBHu02as8>
QR

プログラム
13:00 筋ジストロフィー治療研究の現在地と今後の展望
本橋 紀夫 脳神経小児科診療部長・脳神経小児科医長
13:25 筋ジストロフィーの遺伝性不安と治療
高木 正太郎 脳神経小児科診療部長
13:50 筋ジストロフィーの真に悩める方へ
山本 敬史 脳神経小児科診療部長
14:15 筋ジストロフィーの未来生活
岡田 直也 脳神経小児科診療部長
14:40 休憩
14:50 筋ジストロフィーのチャリティーコンサート
歌田 大輔 脳神経小児科診療部長
15:10 食事療法の村広
鈴木 一平 脳神経小児科診療部長
15:30 食事の工夫
上城 日和 脳神経小児科診療部長
15:50 筋ジストロフィーの展望について
樋口 彩花 脳神経小児科診療部長

問い合わせ 第19回筋ジストロフィー市民公開講座事務局 脳神経小児科診療部長 齋藤 貴志
ncnccenter@ncnp.go.jp 〒187-8501 東京都小金井区小川 4-1-1 脳神経小児科診療部

デイケア活動のご紹介

デイケア看護師長
坂井 輝男

初めまして、7月からデイケアの看護師長になりました坂井輝男です。

今回はデイケアのご紹介をさせて頂きたいと思えます。

デイケアは病院一階の玄関左側に位置し、病院の顔を目指している部署です。

皆さんにはヒマワリを始めとする花々が目に留まっているのではないのでしょうか。

この花々や野菜などの栽培に取り組んでいるのは、デイケアを利用されている利用者さんで、社会参加に向けてリハビリに取り組まれるプログラムの一つです。そこでいくつかのプログラムを紹介させて頂くと、活動系・運動系・暮らし系・心理疾病教育系・ピア系・就労系などの6つの系統に分け、利用者さんに介入を行っています。例えば、活動系の中には書道や絵画などがあり、心理疾病教育系だと、病気の話(疾病教育)やメタ認知トレーニング、SSTなどのプログラムが準備



されています。また、体力の回復や生活習慣病を予防する「けんこうクラブ」「はじめよう健康」というプログラムもデイケアでおすすめしたいプログラムです。

利用者さんは、「いずれ働いてみたい」「学校に戻りたい」「地域で自分らしく生活したい」など、それぞれの目標をもって、デイケアに通われています。その目標を達成するために、当院のデイケアリカバリーパス(2年間を限度と定める)ホップ期、ステップ期、ジャンプ期、キープ期の4段階で徐々に回復を目指し、プログラムを通じ社会参加されていきます。



その目標を達成できるように、デイケアでは医師を始め、作業療法士・精神保健福祉士・臨床心理士・ピアスタッフ・看護師が職種の役割を超えて利用者さんの一人ひとりにあった個別的支援を行い(超職種連携)、必要に応じて地域につながるアウトリーチを行っています。沢山の方に利用して頂けるように、みなさまも、デイケアのご紹介をお願いします。

ご存じですか? NCNP 及び NCNP 病院 公式アカウント



https://twitter.com/NCNP_PR



<https://www.youtube.com/user/NCNPchannel>



https://www.instagram.com/ncnp_pr/ NCNP公式

https://www.instagram.com/ncnp_hospital/ 院長室



NCNP公式



院長室

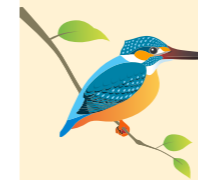


ぜひ、フォロー・チャンネル登録をお願いします!!

NCNPプレスリリース (<https://www.ncnp.go.jp/topics/>)

- 多発性硬化症に対する経口糖脂質 OCH の第二相医師主導治験の成果発表～難治性の二次性進行型に対する画期的治療の可能性～
- デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療薬 (NS-050/NCNP-03) の 米国での第 I / II 相試験治験計画合意に関するお知らせ
- 死別後に長引く悲嘆が共感性を抑制: 悲嘆の脳科学的メカニズムを解明

Nature



NCNP四季便り

情報システム顧問 永井 秀明

キンモクセイ(金木犀)

秋の気配を感じ始めるころ、金色の花が咲きほこり、あたりにいい香りが漂います。

昨年は9月と10月下旬の二回花が咲いたのをお気づきになりましたか?

キンモクセイの花芽は気温の影響を受けやすいらしく、その年の夏の気温の推移次第で花芽が複数回できることがあるそうです。

気候変動の影響はこんなところにも。

さて、今年は何度楽しむことができるでしょう?

